

賀川豊彦の活動に学ぶ

神戸で「災害時支え合いを」
シンポ

社会運動家賀川豊彦（1888～1960年）の活動を振り返り、阪神・淡路大震災被災地から社会運動について考えるシンポジウム「神戸から地球へー共に生きるために」（神戸新聞社後援）が13日、中央区下山手通4の県公館であつた。約300人がパネリストらの意見に耳を傾けた。

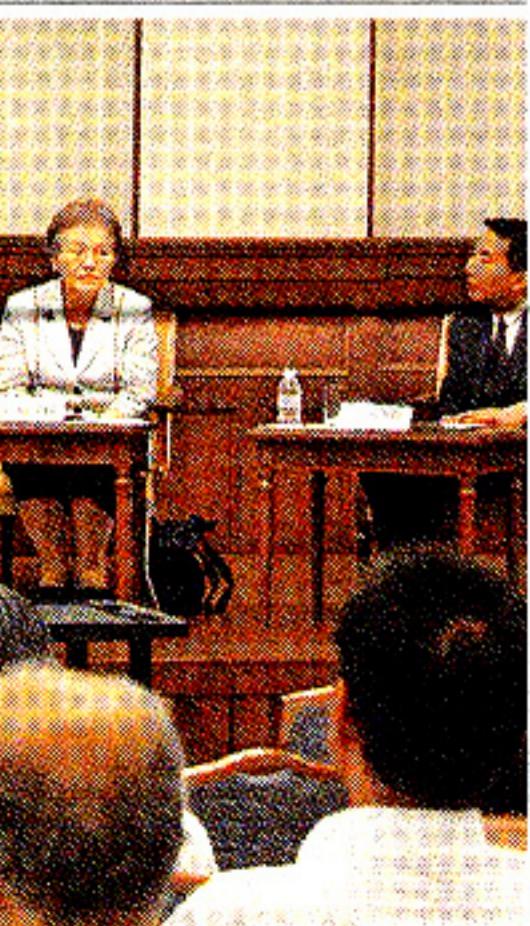
賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト実行委員会などが主催。

ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長の貝原

俊民氏が講演。県知事時代、人と防災未来センターの設置協力を国などに求める際、「関東大震災

のとき、賀川が災害予防研究所や安全博物館を設ける必要性を訴えていた」ということを説得材料によく使った」と披露した。

シンポジウムでは、タ



賀川豊彦の社会運動や阪神・淡路大震災から学ぶことなどを話し合うパネリストら＝県公館

野田正彰関西学院大教授は、震災時の被災者支援の動きなどを振り返りながら「災害時に支え合

い、友愛の精神を生かしていかなければならぬ」と訴えた。

16歳の時に学校を開設したプラティーブ・ウンソンタム・秦さんが「日本が国際的に人権と平和の役割を果たすことは賀川の願いだろう」と話した。

賀川の孫で社会福祉法人

エア（分かち合う）としていきたい」と語り掛けた。